

令和4年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	授業づくり		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆天野 太輔（静和小） ・牧島 和也（吹上小）	・神戸 幸恵（吹上中） ・渡部 絵理子（大平南中）	事務所員 ・大橋 信広 ・石川 慎太郎



3 研究テーマ

学び合いを取り入れた
「できた」「わかった」を実感できる授業づくりの工夫

4 研究の取組

(1) 研究内容

なるべく多くの児童が「できた」「わかった」という達成感や充実感を感じられる授業づくりを研究する。そのために、授業で児童が互いの意見を伝え合う「学び合い」を取り入れて授業実践を行う。

○学び合いを取り入れた授業づくりの視点

- ・授業のねらいに合わせた学び合いの目的と方法
- ・教科による学び合いの方法
- ・学び合いの見取り方（評価との関係）
- ・学び合いのために必要な日常的な取組 など

児童生徒の実態に合わせて、上記のような視点を取り入れた授業実践を行い、より効果的な学び合いの方法を研究していく。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月6日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月22日	研究授業・協議
6月17日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		（大平南中 渡部先生 1年 英語）
10月3日	授業実践の計画、協議	11月25日	授業実践のまとめ
10月25日	研究授業・協議	2月10日	次年度の計画
	（吹上小 牧島先生 4年 算数）	2月20日	1年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・学び合いを取り入れた授業を行うことで、子どもたちが自信をもって取り組めたり、友達と関わることで充実感を得たりすることができた。
- ・ICTを取り入れたり、「個人→ペア→全体」という流れを日常化したりと学び合いの方法を模索することで、授業に合う学び合いの幅が広がった。
- ・試行錯誤を重ねることで、目的をもって学び合いを行うことの重要性を実感することができた。

【課題】

- ・学び合いが教え合いの場になってしまうことが多くなり、目的とずれてしまうこともあった。
- ・子どもたちに達成感をもたせるための学び合いの難しさが分かった。
- ・授業のねらいを達成するために、学び合いの目的をもっと明確にする必要がある。
- ・学び合いを行ったことが、授業のねらいを達成するために十分な活動であったかが見取りにくい。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

子ども達が充実感（「できた」「わかった」）を得られる学び合いについて、さらに研究を深めていきたい。

①授業のねらいに合った学び合いの方法。（ICT等の手法を含む）

- ・観点ごとの学び合いの方法を考える。
（例）思考・判断・表現→多様な考えにふれる学び合い
知識・技能→教え合い

②学び合いの目的を理解させるための指示や学び合いを行っている子どもへの声かけ

- ・学び合いのルール
- ・苦手さをもつ子どもへの声かけ

③授業の評価（見取り）と学び合いの関係。

- ・学び合いが効果的に働いたかの見取り